

# 授業研究部

## 目的

授業研究部では、言語活動を具体化した学習計画を、児童が自ら学ぶスタイルの授業を通して実践できるように、授業の進め方の研究を行った。全ての子どもたちに等しく力を付けるために、全学級が足並みをそろえることが大切と考え、

- ①つばさスタイルの授業実践のポイントの明確化
- ②授業を気軽に見合い助言し合う仕組の提案

を行った。

## ① つばさスタイルの授業実践のポイントの明確化

どの学級でも児童が主体的に学ぶ単元・授業づくりができるように、実践のポイントを（１）教材研究を行う際のポイント（２）実際の45分の授業の際のポイントに分けてまとめた。

### （１）学年等で教材研究を行う際のポイント

#### ○付きたい力の明確化（仮説1-1）

- ・ゴールの児童の姿、そのために必要な言語活動は何か明確にする。
- ・単元全体はもちろん、1時間ごとに、付きたい力を焦点化する。欲張らない！

#### ○交流の場の相手意識・目的意識の明確化（仮説1-2）

- ・何時間目に推敲や練習、発表等の交流活動をするか明確にし、友達と質問や助言、感想を交流する場を確実に設けることで、友達のよさに気付き学び合えるようにする。

#### ○言語環境の整備と充実（仮説1-3）

- ・付きたい力や言語活動の内容に合った環境を整える。  
(並行読書、語彙集め、スピーチや日記の継続など)
- ・語彙集ファイルにポイントシートをファイリングする。

## 教材研究

#### ○学習の見通しと振り返り

##### （仮説2-1）

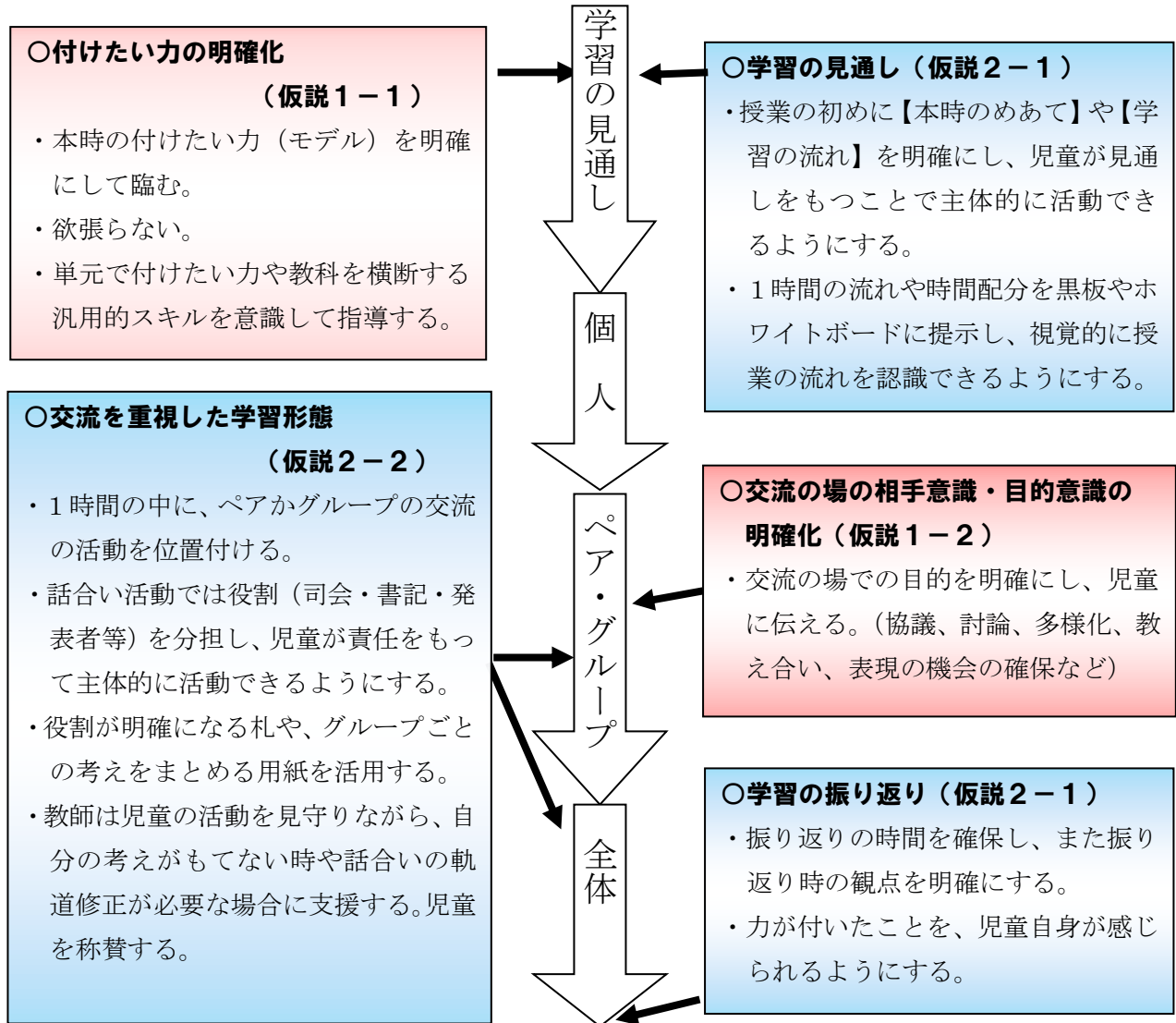
- ・学習計画を児童と一緒に立てるが、予めモデルとなる学習計画を定めておく。
- ・振り返りのできるワークシートを用意する。

#### ○様式・モデル学習の重視

##### （仮説2-3）

- ・単元を通して、教材文や教師が作った、ゴールにせまるためのモデルを基にモデル学習を行えるようにする。
- ・モデルから学んだポイントが、児童の活動のチェックポイントになる。
- ・モデル作成が最良の教材研究。

## (2) 実際に 45 分の授業を行う際のポイント



## ② 授業を公開し、見合う仕組みづくり

### 授業公開の仕組

- ◎どの学年、組の授業公開でも参加 OK!
- ◎計画した授業公開以外にも互いに声をかけ合っていていつでも見合う!
- ・公開授業の計画は、職員室に時間割表を作って掲示し、誰でも参観できるようにする。
- ・指導案、略案等は必要ないが、作成したワークシートと授業の流れが分かるメモ (板書計画や司会計画等) を用意する。
- ・研究の焦点を絞りメモに書いて配布する。同じメモに参観者は感想を書き、研究が深められるようにする。

### 成果○と課題△

- 自分の授業を見直すことができた。
- 児童の成長している点や取り組むべき課題を明確にすることができた。
- つばさスタイルに限らず、指導方法を学び合うことができた。
- 学年で意見を交換する機会が増えた。
- 他クラスの児童理解が深まった。
- △どのクラスも同様な国語力を付けていくには、学年で協議して足並みをそろえて指導していくことが必要である。

# 言語活動部

## 目的

言語活動部では、仮説2の視点「自ら学ぶ学習スタイル」をよりよいものにし、どの学級でも児童が話し合いを進められるようにするため



- ①司会原稿の作成→全体またはグループで児童がねらいに沿った話し合いを進められるようにする。
  - ②授業計画書の作成→司会グループがねらいを明確にし授業を進められるようにする。
  - ③振り返りの方法の提案→振り返り時のねらいを明確にする。
- を行った。

## ①司会原稿の作成

1年生は、まず、司会通りに進められるようにすることを目標に基本的な司会の原稿の見直しを行った。

**1年生**

「しかいだいせん」ねんせいよう  
 ○これから、○じかんめの がくしゅうを はじめます。れい。  
 ○まえのじかんに、がくしゅうしたことや、わかったことを はつびょうしてください。  
 ○きょうの がくしゅうは「○じかんめです。」  
 「の」  
 ○がくしゅうのめあては「みんな得意いましょう。さんはい。」  
 ○がくしゅうのながれを、かくしんします。  
 ・はじめに  
 ・つぎに  
 ・さいごに  
 ○せんせいの おはなしです。せんせい、よろしくおねがいします。  
 ○せんせい、おねがいます。  
 ○これで、○じかんめの、ペンきょうをおわりにします。れい。  
 ながれにそって、がくしゅうをする。  
 ○つぎに、がくしゅうの、ふりかえりをします。ふりかえりを、はつびょうしてください。  
 ○さいごに、せんせいのおはなしです。せんせい、おねがいます。  
 ○これで、○じかんめの、ペンきょうをおわりにします。れい。

## 2年生

○これから、5についての、はなしあいをはじめます。れい！よろしくおねがいします。  
 ○これから、ひとりずつ、いけんをはつびょうしてまいります。  
 ・まずはじめに、○○さん、おねがいます。ひとりめのはつびょうしつもんはありますか？  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ・つぎに、○○さん、おねがいます。ふたりめのはつびょうしつもんはありますか？  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ・つぎに、○○さん、おねがいます。さんにんめのはつびょうしつもんはありますか？  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ・さいごに○○さん、おねがいます。よにんめのはつびょうしつもんはありますか？  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ありがとうございます。(はくしゆ)  
 ○これでグループのはなしあいをおわりにします。れい




## 教室掲示



2年生からは、グループの話し合いが意見を言うだけで終わっているところがある、意見をまとめるのが難しい、原稿を見て話すだけで相手を意識していない等の課題が挙げられた。そこで、グループの話し合いの流れとそこで使える言葉を、教室の後ろに大きく掲示することにした。

## 3年生

3年生からは、児童に任せる部分と教師が入るポイントが難しいという意見が挙げられた。そこで、ねらいを意識して授業が進められるように、司会原稿を見直した。指示の仕方を2通り示し、ねらいに合ったものを選択できるように、原稿に付け加えることにした。また、司会が進行に困った際の助けとなるヒントを、司会原稿の裏面に載せた。

出された中で、  
 いているいけんは、  
 ありますか。  
 ○○と△△は  
 まとめていいですか  
 これは、なくてもいいと  
 いういけんはありますか。  
 りゆうもいってください  
 では、○○といういけんを  
 まとめていいですか。

10 グループのめあては、「5について話そう」としてほしい。  
 ○ねらいに沿って3の話し方をめあて。  
 ①グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ②グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ③グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ④グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑤グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑥グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑦グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑧グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑨グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑩グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑪グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑫グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑬グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑭グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑮グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑯グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑰グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑱グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑲グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ⑳グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉑グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉒グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉓グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉔グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉕グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉖グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉗グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉘グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉙グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉚グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉛グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉜グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉝グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉞グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㉟グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊱グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊲グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊳グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊴グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊵グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊶グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊷グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊸グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊹グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊺グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊻グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊼グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊽グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊾グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。  
 ㊿グループで話し合うこと。話し合いのめあては「5について話そう」としてほしい。

## ②授業計画書の作成

4年生以上の学年は、授業計画書を使い、成長段階に合わせて、授業に入る前に司会との打合せを行うようにした。

### 4・5年生

4年生は、本時の授業のねらい、中心となる活動を押さえておくようにし、教師が入るポイントをしぼるようにした。

5年生は、児童がそれぞれの活動の意味をしっかりとらえて活動に臨めるように、全体司会が活動の内容だけでなく、その意味を付け加えて伝えられるように打合せをしてきた。また、学習のねらいについても、必要があれば授業中に何度も確認をするようにした。

### 6年生

6年生は、授業計画書を使い、司会グループの児童が事前に考えてきたものを基に教師と打ち合わせる形をとった。授業計画書には、「この授業で身に付けたいこと」の欄を設け、教師と確認することで、司会グループがねらいを明確にして、授業を考えられるようにした。また、司会グループで話し合い、板書計画を考えることで、より具体的に授業の流れを想像し、授業計画を立てられるようにした。

## ③振り返りの方法の提案

昨年度までは、学習のまとめの後、振り返りを書いてから先生の話をしていましたが、振り返りの前に先生の話を入れた方がねらいに沿って活動を振り返ることができると考え、司会原稿を見直した。

### 成果○と課題△

- 低学年は、司会原稿があることで安心して話し合いを進めることができた。また、手元ではなく大きく掲示することで顔を上げ、相手意識をもって話をするようになった。
- 振り返りの前に先生の話を入れることで、もう一度ねらいに対する自分の活動を振り返ることができた。
- 授業の計画書を使うことで、授業前に児童と打合せが行いやすかった。
- △児童が主体的にゆとりをもって進めるためには、司会の技術を上げるだけでなく、教師側が身に付けたい力を明確にし、授業で行う活動を詰め込みすぎず精選することが必要である。
- △どのクラスも同様な国語力を付けていくには、学年で協議して足並みをそろえて指導していくことが必要である。



# 言語環境部

## 目的

言語環境部では、全ての学年、学級においてつばさスタイルの実践ができるように、教室の掲示物の統一や、板書用見通しカードの作成、語彙集、単元のまとめの作成を中心に行った。また、児童がつばさスタイルを実践し、自分の思いや考えを伝えていく活動の中で、どのような難しさや、課題点があるのかを明らかにするために、「つばさっこ学習アンケート」の実施、結果のとりまとめ、考察を行った。

## ① 教室環境の整備

### 1 声のものさし、話し方のポイント、聞き方のポイントの掲示

学校で共通して、声のものさし、話し方のポイント、聞き方のポイントを教室の廊下側に掲示を行った。各学年共通のものを掲示し、指導の際に学級によって差が出ないようにした。

#### ○教室掲示

- ・声のものさし
- ・話し方のポイント
- ・聞き方のポイント
- ・単元のまとめ



### 2 単元のまとめの掲示

国語の各単元のまとめを作成し、教室の後方に掲示をした。新しい単元に入った際や、単元の中でつまづいた際に振り返り、学習の手助けとなるようにしている。



### 3 板書用見通しカードの作成と活用

学校で共通した板書用の見通しカードを作成し、「前回の時間の学習」から「振り返り」までの流れを黒板に掲出し、一目見て学習の流れが分かるようにした。また、全学年統一して、学習の流れを決めることで、つばさスタイルの実践をしやすくした。

#### ○板書用見通しカード

学習の流れが分かり、学習の見通しをもてるようにする。

## ② つばさっ子学習アンケートの実施

### 1 アンケートの実施

つばさ小学校の児童が本校で取り組んでいる授業スタイルでの学習についてどのように考えているかを知るため、アンケートを実施することにした。各学年、内容を統一し、昨年からの意識の変化が見られるようにした。また、アンケートの内容から、児童が意見をもち、伝えるために難しいと思っていることを知り、指導の手立てとなるようにした。

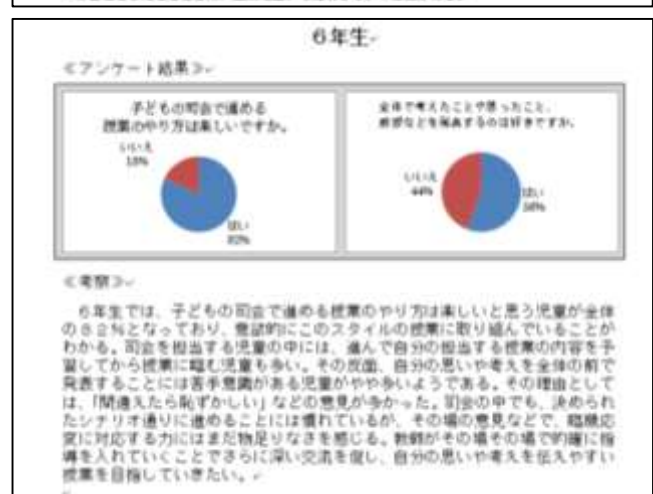
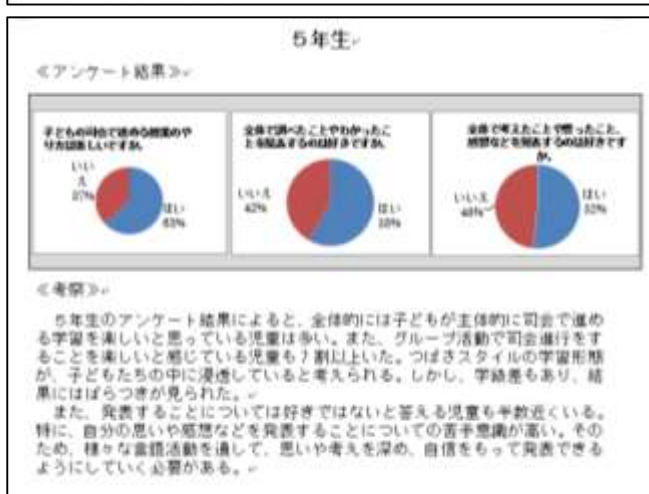
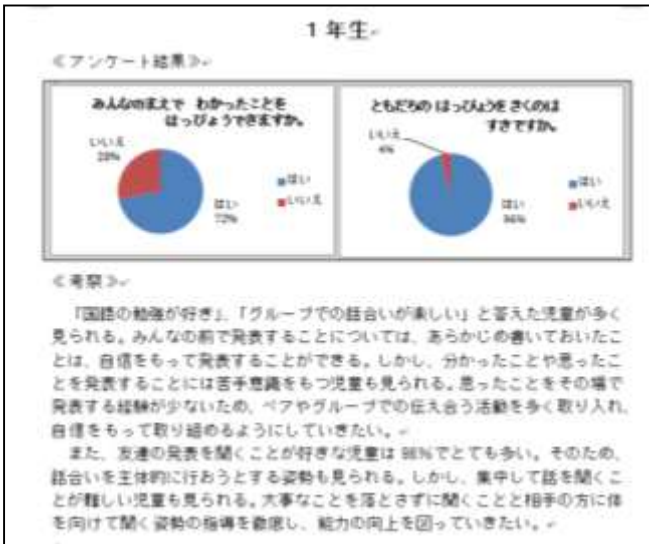
1年生

2年生

3年生～

6年生

## 2 各学年のアンケート結果の考察



### 成果○と課題△

- アンケートをとることで各学年の特徴をとらえることができ、児童のつまづきを知ることができてよかった。
- 学校、学年ごとに掲示物を統一することで、それぞれの学級でつばきスタイルの実践をしやすくなった。
- △どの学年でも全体の前で発表することを苦手とする児童の割合が多かった。児童が考えたことをグループの中で伝え合い、全体で話す機会を多く作っていきたい。今後、自己肯定感を高め、自信をもって話すことができるようにしていきたい。